

第40回 企業活性化研究分科会・議事録

<第40回 2011年5月21日(土) 時間:13:30~16:30 於:専修大学(神田校舎)>

参加者:井端、魚谷、大野、木村、小林、齋藤、柴山、杉本、千葉、長井、星野、山本、渡邊

1. テーマ(1):『*Learning the wrong lessons from history: Underestimating strategic change in business turnarounds*』 by Andrew M. Wild』

についての翻訳および検討

- ・報告者:千葉啓司
- ・配布資料:4枚

2. テーマ(2):粉飾企業の分析

- ・報告者:星野敏之
- ・配布資料:7枚
- ・報告内容の要旨

本報告は、株式会社日本ビクター(以下、「同社」という。)の粉飾について分析したものである。同社は、映像機器、音響機器、記録メディア事業を展開している企業であり、平成19年8月に株式会社ケンウッドが資本参加し、その後平成20年10月に経営統合した。同社の粉飾は、経営統合以前から不適切な会計処理があることが発覚し、平成22年6月に金融庁により課徴金納付を命じられた。

本分析では、財務数値の推移、収益性分析、リスク対象額とリスク累計額の分析を試みた。加えて、同社は多くの連結子会社を有していることや株式会社ケンウッドとの経営統合を行っていることから、連単倍率に着目し、同社が実行した戦略とそれに伴う財務数値への影響についての分析も試みた。本分析によると、連結及び個別財務諸表による収益性分析を行い、ROA、EOL、M、Tなどの各値を検討した結果、収益性の低下が見られた。さらに、各連単倍率の推移から、子会社の収益が低下していたと推測し、また構造改革に伴う企業の統廃合、従業員のリストラ等の縮小戦略と組織変更等の復帰戦略の組み合わせを実行してきたと推察した。その他に、同社は減損損失の不計上、費用や引当金の過小計上による粉飾経理を行い、当期純損益の数値を改ざん及び虚偽報告した。同社の不適切な会計処理は、生産効率や利益率の低下に陥った事業再建の困難性が背景にあると考察した。

3. テーマ(3):年次大会報告「企業のリスク管理と内部留保について」

- ・報告者:井端和男
- ・配布資料:7枚

<研究会の予定>

- ・ 7月23日
- ・ 9月10日
- ・ 10月22日
- ・ 11月19日

(文責:齋藤幸雄)